



今年はお世話になりました。新年もよろしく申し上げます。

校長 小澤 進

令和5年も、もうすぐ終わりを告げようとしています。4月からの状況を振り返ってみますと、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行されたことで、今年は社会が大きく変化したように思います。かなり記憶が薄れてきていますが、3年間続いたコロナ禍においては、日常生活では基本的にマスクを着用する、3密を避ける、研修や会議は中止又はオンラインで行う、会食は禁止されるなど、様々な制限がありました。本当に元通りの生活になるか、疑心暗鬼になりながらも、今では急速にコロナ禍以前の社会に戻ったように感じています。

また、コロナ禍においては、沢山の学校で、修学旅行が中止になったり、卒業式に保護者が出席することができなかつたりと、信じられないような状況が続きました。現代はまさに「明日何が起きるか分からない、予測困難な時代」であると、実感しました。

このような時代を生き抜いていかなければならないのが、今の子どもたちです。

コロナ禍を経た今の小学生から高校生には、1人に1台のタブレット端末が行き渡り、タブレット端末（パソコン）は新たな文房具となっています。ICT機器を活用するなど「情報活用能力」は、子どもたちが身に付ける必要のある力の一つです。一方、社会に目を向けると、多くの企業で新入社員に求めていることは「素直さ」「誠実・責任感」「コミュニケーション力」であると聞きます。コロナ禍以前から変わらない、普遍的なものです。

北陽小学校の全ての子どもに、新たに必要となってきた「情報活用能力」だけでなく、普遍的に求められている「素直さ」「誠実・責任感」「コミュニケーション力」を身に付けさせたいと考えています。引き続き、ご協力をよろしく申し上げます。

学校保健委員会を開きました。

12月1日（金）に、秋田県生涯学習センターの柏木睦氏から、「メディアとの上手な付き合い方～大人としてできること」について、講話をしていただきました。上述のとおり、学校でもタブレット端末を使用している現在、子どもがネットを利用することは当たり前の時代になっています。子どものネットの利用の現状として、次のことがあげられるという話がありました。

- ・デビューの低年齢化
- ・長時間の利用
- ・攻撃的な利用
- ・内向きな利用

などです。

少し前は、何かあったら「だめ」「禁止」だったかもしれませんが、今は、いかにネットと上手に付き合っていくかという観点が大切です。柏木氏の講話の中に、次のような話がありました。

「子どもが自転車に乗れるようになるためには、大人は、補助輪付きの自転車から徐々に練習させていく。突然大きい自転車に乗れるわけではない。ネット利用なども同じ。徐々にできるようにしていく必要がある。強い制限（約束）をした後に徐々に制限を弱くしていくなど、大人は戦略を練る必要がある。最初に制限を弱くして、後で強くしようとしても、子どもは従わない。」
ネット利用などについて、各家庭で、子どもと一緒に考えていただきたいと思います。



日々の授業で、子どもたちは、普通に、タブレット端末を使っています。